

宗教的な行事が弥勒寺・宇佐神宮複合施設周囲に 9 世紀から 14 世紀にかけて集中したので、その地方の寺・神社の数はおよそ 50 まで増えた。この宗教上の熱意の主な証の二つは、半島中で今でも見られる絶壁の彫刻と石の祈念碑である。これらのうちもっとも有名なものは熊野磨崖仏で、豊後高田、平野の絶壁に設置された一対の仏陀の石像である。一つの彫刻は高さ 6 メートルあり、宇宙で最高の仏陀である大日如来で日本で最も大きく作られたものである。もう一方は 8 メートルの高さがあり、信仰の守護神である不動明王を表現している。